科目名	基礎看護学特講
科目責任者	鶴田惠子
単位数他	2 単位数（30 時間）　春セメスター
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	自己の研究疑問を明確にするために、関連する理論や文献の抄読を通して、関心のある看護現象への理解を深める。同時に研究方法に関する理解を深める。
到達目標	1. 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択する。 2. 文献検討を行い、現象理解を深めることができる。 3. 現象の理解に基づき、研究疑問を明確にすることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：研究課題の検討１ 第 2 回：研究課題の検討２ 第 3 回：研究課題の検討３ 第 4 回：研究課題の検討４ 第 5 回：文献検討１ 第 6 回：文献検討２ 第 7 回：文献検討３ 第 8 回：文献検討４ 第 9 回：文献検討５ 第 10 回：文献検討６ 第 11 回：研究課題と研究方法１ 第 12 回：研究課題と研究方法２ 第 13 回：研究課題と研究方法３ 第 14 回：研究課題と研究方法４ 第 15 回：研究課題と研究方法５ 各回の具体的項目をご記述ください。

学修方法	学生の問題意識にそって文献検討を行う。理論や文献の検討を通して、研究課題を明確にし、看護の諸現象について考察を深めることができるよう、自己学習を十分に行う。さらに、自己の考えを十分に表現し、整理できるように、主体的に討議等を進める。
評価方法	授業への参加度 30%、プレゼンテーション内容と方法 30%、レポート課題 40%で評価する。
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは面接で行う。
指定図書	初回の授業時間に提示する。
参考書	初回の授業時間に提示する。
事前・事後学修	自己の関心に照らして、関連文献を選択できるよう文献のクリテーク
オフィスアワー	初回の講義時に提示する。

科目名	基礎看護学特講演習
科目責任者	鶴田惠子
単位数他	1 単位（30 時間）　秋セメスター
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	基礎看護学領域における研究課題について、文献での検討と討論を行う。さらに、基礎看護学領域における課題と研究方法について、文献検討を行い、討論で理解を深め、実際の活動に参加し研究課題の探索を行う。
到達目標	1. 基礎看護学領域における諸現象が分析できる。 2. 基礎看護学領域の諸現象に関する論文のクリティークができる。 4. データ収集方法および分析技術を検討することができる。 5. 基礎看護学領域のフィールドに出て、研究課題の探求を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回: 文献のクリティークについて 第 2～4 回: 基礎看護学領域における諸現象について分析するために文献検討を行う。 第 5～10 回: フィールドワーク 第 11～12 回: フィールドワークのデータ分析経過の発表と討議 第 13～14 回: 分析結果の発表と討議 第 15 回: フィールドワークと成果発表

学修方法	講義、プレゼンテーション、フィールドワーク
評価方法	演習計画（20%）、フィールドワークへの参加状況（40%）、実践報告レポート（40%）
課題に対するフィードバック	面接及びレポートにコメントを記載して返却
指定図書	なし
参考書	授業中に紹介します
事前・事後学修	文献のクリティークでは、抄録論文について十分な読み込みをして授業に臨んでください。
オフィスアワー	鶴田研究室は、1617 です。 時間については、初回授業時に提示します。

科目名	看護管理学特講
科目責任者	鶴田惠子
単位数他	2 単位（30 時間）　春セメスター
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	国内外の看護管理学領域の諸概念をレビューするとともに、看護管理学領域における研究の動向や課題を探求し、研究方法論を探求する。
到達目標	看護管理学研究の動向及び方法について熟知するとともに、自らの研究疑問を深めることができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回: オリエンテーション 第 2 回: 看護管理に関する理論・概念（1） 第 3 回: 看護管理に関する理論・概念(2) 第 4 回: 看護管理学領域の研究の動向（1） 第 5 回: 看護管理学領域の研究の動向（2） 第 6 回: 看護管理学領域の論文のクリテーク（1） 第 7 回:看護管理学領域の論文のクリテーク（2） 第 8 回:看護管理学領域の論文のクリテーク（3） 第 9 回:看護管理学領域の論文のクリテーク（4） 第 10 回:看護管理学領域の論文のクリテーク（5） 第 11 回:看護管理学領域の研究課題（1） 第 12 回: 看護管理学領域の研究課題（2） 第 13 回: 看護管理学領域の研究方法（1） 第 14 回:看護管理学領域の研究方法（2） 第 15 回: まとめ

学修方法	文献のテーマは、学生と相談の上、決定する。
評価方法	討論への参加度（40%）、課題レポート（60%）
課題に対するフィードバック	課題のフィードバックは面接及びレポートにコメントを記載して返却する。
指定図書	なし
参考書	必要に応じて、紹介します。
事前・事後学修	事前にテーマを提示しますので、そのテーマについてレポートを準備し、プレゼンテーションに臨んでください。
オフィスアワー	鶴田研究室は、1617 です。 時間については、初回の授業時に提示します。

科目名	看護管理学特講演習
科目責任者	鶴田惠子
単位数他	1 単位（30 時間）　秋セメスター
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	看護管理学領域における研究課題について、文献での検討と討論を行う。さらに、看護管理学領域における課題と研究方法について、文献検討を行い、討論で理解を深め、実際の活動に参加し研究課題の探索を行う。
到達目標	1. 看護管理学領域における諸現象が分析できる。 2. 看護管理学領域の諸現象に関する論文のクリティークができる。 3. データ収集方法および分析技術を検討することができる。 4. 看護管理学領域のフィールドに出て、研究課題の探求を行うことができる。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回： 文献のクリチィークについて 第 2～4 回： 看護管理学領域における諸現象について分析するために文献検討を行う。 第 5～10 回： フィールドワーク 第 11～12 回： フィールドワークのデータ分析経過の発表と討議 第 13～14 回： 分析結果の発表と討議 第 15 回： フィールドワークと成果発表

学修方法	講義、プレゼンテーション、フィールドワーク
評価方法	演習計画（20%）、フィールドワークへの参加状況（40%）、実践報告レポート（40%）
課題に対するフィードバック	面接及びレポートにコメントを記載して返却
指定図書	なし
参考書	授業中に紹介します
事前・事後学修	文献のクリティークでは、抄録論文について十分な読み込みをして授業に臨んでください。
オフィスアワー	鶴田研究室は、1617 です。 時間については、初回授業時に提示します。

科目名	環境支援看護学特別研究	
研究指導教員	鶴田惠子、川村佐知子（研究指導教員は課題により決まる）	
単位数他	6 単位（180 時間）　選択　　通年	
科目の 位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	これまでの学修をふまえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。 研究指導は、研究指導教員を中心に、環境支援看護学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第 3 者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。	
授業計画 および 評価方法	＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春セメスター：これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	＜評価方法＞ 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋セメスター： 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	２年次春セメスター：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
	２年次秋セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集及び副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	３年次春セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の論理性・技法の適切性（100%）
	３年次秋セメスター：第 3 者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度(70%)第 3 者の評価による修正の適切性(30%)

学修方法	討議を進められる資料を用意する。
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	面接及びレポートにコメントを記載して返却
指定図書	バーンズ, ナンシー・グローブ, スーザン.K.著「バーン＆グローブ看護研究入門」エルゼビア
参考書	指定していない
事前・事後学修	討議を進められる資料を用意する。
オフィスアワー	初回講義時に提示する。

科目名	地域看護学特講
科目責任者	鈴木　知代
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	地域で生活する人々において社会生活環境の影響などを受けて発生する健康問題を学修し、人々の健康問題を、個別的・集団的・組織的・地域的に把握し、その解決法や予防法について、ＩＰＷや地域包括ケア、国の施策などからの視点を踏まえて探求する。
到達目標	１．地域で(療養)生活する人々の健康問題を把握し、それらについて個別的・集団的・組織的・地域的な解決策や予防法を修得する。 ２．変化する法制度の背景とその制度を理解し、国の制度や施策をどのように地域の健康課題解決に反映させるか、その方法について修得する。 ３．予測されている近未来の健康課題を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：地域で生活する人々の健康問題および予測されている近未来の健康問題　鈴木知代、酒井昌子 第 2 回：第 1 回で論じた健康問題に対応する理論について　鈴木知代、酒井昌子 第 3 回：介護保険法の変遷と関係する制度、関係する機関・組織　鈴木知代、酒井昌子 第 4 回：医療保険関係法、障害者自立支援法、地域保健法など　鈴木知代、酒井昌子 第 5 回：地域看護学・公衆衛生看護学・在宅看護学に関係する法制度　鈴木知代、酒井昌子 第 6 回：第 1–5 回の学修内容に関しての学生のプレゼンテーション　鈴木知代、酒井昌子 第 7 回：地域看護の活動の展開　鈴木知代、酒井昌子 第 8 回：地域で活動する看護職と多職種、多機関の連携　鈴木知代、酒井昌子 第 9 回：地域包括ケアシステムにおける看護職の役割と課題　鈴木知代、酒井昌子 第 10 回：教育機関における看護の役割と課題、これ以降は学生の研究や関心ある課題にそって焦点化した内容とする　鈴木知代、酒井昌子 第 11 回：地域看護で用いる技術　鈴木知代、酒井昌子 第 12 回：地域看護活動　鈴木知代、酒井昌子 第 13 回：在宅看護活動　酒井昌子 第 14 回：公衆衛生看護活動　鈴木知代 第 15 回：まとめの討論　鈴木知代、酒井昌子

学修方法	第6回と最終回では、学生はテーマにそってレポートをまとめ、プレゼンテーションを行う。 各回の授業の最後には、学生との討論時間を設ける。
評価方法	レゼンテーション内容（30%）、毎回の授業の討論の参加状況（30%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	・各授業の最後に行う討論において、学生の理解度を把握しフィードバックを行う。 ・2回の学生のプレゼンテーション後には、フィードバックを行う。
指定図書	特になし
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業の最後に、次の授業のテーマの事前学修の内容を提示する。また、授業の最後に行う討論にて、課題をみつけて事後学修テーマとする。
オフィスアワー	鈴木知代（1215研究室）　tomoyo-s@seirei.ac.jp 酒井昌子（3410研究室）　masako-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。

科目名	地域看護学特講演習
科目責任者	鈴木　知代
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	地域看護学特講で得た知識や概念、予測などを踏まえて、各学生の研究課題について、さらに知識をひろげ、課題を焦点化し、研究の枠組みを構築し、研究方法・デザインの概要を検討し、研究の概要を形づくれるように演習を行う。
到達目標	１．各学生が自身の研究課題の焦点化を深める。 ２．各学生が自身の研究課題を追究するために、必要な研究枠組みや理論を構成する。 ３．課題探求に適切な方法・デザインの概要を決定する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 各学生は自身の研究課題について探求する。討論は全学生・教員で行う。 第 1 回：研究課題について、社会の変遷から俯瞰する。　鈴木知代、酒井昌子 第 2-3 回：研究課題について、地域看護学、社会学、医学、倫理学などから俯瞰する。 鈴木知代、酒井昌子 第 4-5 回：地域看護学の視点から考察し、焦点化を進める。　鈴木知代、酒井昌子 第 6-7 回：焦点化した研究課題について、研究者、実践家から意見を得るためにフィールドワークを行う。　鈴木知代、酒井昌子 第 8-9 回：焦点化した研究課題をもとに、研究目的を決め、研究課題（第一案）を作成する。 鈴木知代、酒井昌子 第 10-11 回：研究課題（第一案）をもとに研究枠組み（第一案）を検討する。 鈴木知代、酒井昌子 第 12-13 回：研究枠組み（第一案）から、必要な調査を検討する（複数の調査を要する場合が多い）。　鈴木知代、酒井昌子 第 14 回：各調査について、調査目的、調査方法を検討する。　鈴木知代、酒井昌子 第 15 回：研究概要を提示する。　鈴木知代、酒井昌子

学修方法	ゼミ形式の授業。各回の授業の最後には、学生とテーマを決めて討論時間を設ける。
評価方法	レゼンテーション内容（30%）、毎回の授業の討論の参加状況（30%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	・各授業の最後に行う討論において、学生の理解度を把握しフィードバックを行う。 ・2 回の学生のプレゼンテーション後には、フィードバックを行う。
指定図書	なし
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	各回の授業の最後に、次の授業のテーマの事前学修の内容を提示する。また、授業の最後に行う討論にて、課題をみつけて事後学修テーマとする。
オフィスアワー	鈴木知代（1215 研究室）　tomoyo-s@seirei.ac.jp 酒井昌子（3410 研究室）　masako-s@seirei.ac.jp 時間については、初回授業時に提示する。

科目名	老年看護学特講
科目責任者	大村　光代
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	高齢者を取り巻く現象を広い視野でとらえ、高齢者の加齢による影響や自己実現、自立を踏まえ、理論的根拠に基づく分析を通し、老年看護の専門性の観点から生活支援システムを探求する。
到達目標	1. 老年看護の概念枠組み・歴史的変遷・将来展望援・倫理的課題と看護師の責任、老年看護学の研究の動向について修得する。 2. 加齢に関する生物学的な新知見を理解する。 3. 高齢者の機能アセスメント技法、評価法について修得する。 4. 高齢者ケアの質の維持向上のためのネットワークシステム・IPW について理解する。
授業計画	＜講義内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：老年看護の概念枠組み、活用する理論について　大村光代 第 2 回: 老年看護実践の概念的な基礎について　大村光代 第 3 回: 老年看護の歴史的変遷　大村光代 第 4 回: 老年看護の課題と将来展望　大村光代 第 5 回: 老年看護の倫理的側面：看護師の責任&状況判断のための倫理的概念枠組み　大村光代 第 6 回: 老年看護の倫理的側面：個人・家族の倫理的葛藤&地域や社会における倫理的問題　大村光代 第 7 回: 老年看護に関する研究の動向（1）　大村光代 第 8 回: 老年看護に関する研究の動向（2）　大村光代 第 9 回：加齢に関する生物学的な新知見：Elderly Biological Theories　特別講師　妹尾圭司 第 10 回：加齢に関する生物学的な新知見：Recent Theories of Aging　特別講師　妹尾圭司 第 11 回：高齢者の心理学的加齢変化　大村光代 第 12 回：高齢者のための栄養学的・薬理学的配慮　大村光代 第 13 回：高齢者の機能ｱｾｽﾒﾝﾄ（1）comprehensive functional assessment　大村光代 第 14 回：高齢者の機能ｱｾｽﾒﾝﾄ（2）nursing assessment of elderly people　大村光代 第 15 回：高齢者ケアのためのネットワークシステム・IPW について　大村光代

学修方法	講義およびゼミ形式
評価方法	クラスへの参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート(30%)を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する
指定図書	Matteson &McConnell‘s：Gerontological Nursing；Concepts and Practice 鍋島陽一，他監訳：老化のバイオロジー，ﾒﾃﾞｨｶﾙ･ｻｲｴﾝｽ･ｲﾝﾀｰﾅｯｼｮﾅﾙ出版，2000.
参考書	テーマに応じて随時紹介する。
事前・事後学修	学生のワークについて，初回に学生が担当するテーマを示すので、指定図書、他を良く読み、事前にゼミ資料を作成してくること。
オフィスアワー	大村光代：看護学研究科、1612 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） 連絡先　mitsuyo-o@seirei.ac.jp

科目名	老年看護学特講演習
科目責任者	大村　光代
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	老年看護学領域の特講およびインタープロフェッショナル特講等をふまえて、老年看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. 老年看護学領域の研究の動向、加齢に関する新知見等を踏まえて、自己の研究課題を明確にする。 2. 研究課題解決のための理論や概念枠踏み、方法論・技法、IPW の視点を用いて、実証的に研究する方法（並びに実践に応用する方法）を研究計画に組み込み、そのプロセスおよび結果を評価・考察する。
授業計画	＜講義内容・テーマ等＞ 第 1 回：授業の進め方：関心のある研究テーマの紹介とディスカッション 第 2 回：関心のあるテーマに関する文献の検討 第 3 回：関心のあるテーマに関する文献の検討 第 4 回：研究目的の明確化 第 5 回：テーマに関する主要概念の検討 第 6 回：テーマに関する主要概念の検討 第 7 回：テーマに関する主要概念の検討 第 8 回：テーマに関する研究枠組みの検討 第 9 回：テーマに関する研究枠組みの検討 第 10 回：テーマに関する研究方法の検討 第 11 回：テーマに関する研究方法の検討 第 12 回：テーマに関する研究計画書の検討 第 13 回：テーマに関する研究計画書の検討 第 14 回：高齢者ケアのためのネットワークシステム・IPW との関連の検討 第 15 回：研究計画書の作成

学修方法	学生の発表を中心に行い、ゼミ方式と個別指導により進める。
評価方法	クラスへの参加度とプレゼンテーション（70%）、レポート(30%)を総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	毎回の授業で、発表内容に対するコメントを提示する レポートは、評価後にコメントを記入したものを返却する
指定図書	D.F.ﾎﾟｰﾘｯﾄ　&　C.T.ﾍﾞｯｸ　近藤潤子監訳:看護研究－原理と方法－第２版, 医学書院, 2010.
参考書	学生のテーマに応じて随時紹介する。
事前・事後学修	関心あるテーマについて、動機および研究課題を明確にし、テーマに関連する文献を 5 編以上精読してくること。
オフィスアワー	大村光代：看護学研究科、1612 研究室（曜日・時間については初回授業時に提示します。） 連絡先　mitsuyo-o@seirei.ac.jp

科目名	精神看護学特講
科目責任者	式守晴子
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	人々の精神的な健康課題を学修し、治療的援助技法を活用して精神的健康課題を持つ人々とその家族への支援を実施、評価する能力を修得するとともに、社会や制度の変化に対応した精神的な看護支援の方法を検討し、改善・教育する能力を培う。
到達目標	１．さまざまな精神的な健康課題の特徴を把握し、それに応じた治療的・教育的援助技法を理解し実施および評価する方法を修得する。 ２．精神看護と関連した法制度の変化に応じた看護を提供する場とそこでの問題点を理解する。 ３．脳科学の発達、新薬の開発などによる新たな知見を理解し、それらと従来の精神看護の方法とを統合した看護の展開方法を考察する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：現在の精神看護の対象者の課題 入院・外来における疾患名の特徴、精神科病床数・平均在院日数の変化等 第 2 回　精神科病棟における看護の課題　1 統合失調症、気分障害への薬物療法の課題と看護のアプローチなど 第 3 回　精神科病棟における看護の課題　2 退院促進に関する制度と看護のアプローチおよび慢性期の人々への看護のアプローチ 第 4 回　外来・ディケア・訪問看護における精神看護の課題、目的、方法等、 第 5 回　地域における社会資源との連携 障害者総合支援法による施設の機能と役割 第 6 回　精神障害者の身体合併症に対する看護の課題 第 7 回　発達障害、高次脳機能障害、認知症等と関連した看護の課題 第 8 回　精神保健福祉法改正に伴う家族の位置づけと家族への支援 第 9 回　機能別病棟の課題 司法病棟、スーパー救急病棟の課題、慢性期療養病棟の行方 第 10 回　地域包括ケアの推進に伴う、精神障害者へのアプローチの位置づけ 第 11 回　精神看護における倫理的課題 第 12 回　地域に暮らす人々のメンタルヘルス 学校、産業での課題、リエゾン看護、　災害とメンタルヘルス等 第 13 回から 15 回　学生の研究テーマによる精神看護の課題

学修方法	テーマに関する文献のプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を行う。
評価方法	ディスカッションへの参加度及びプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	プレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。
指定図書	各回の前にそれぞれの文献、図書を指定します。
参考書	学生の研究テーマに応じて参考書を紹介します。
事前・事後学修	授業前に関連資料（事例等）を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。
オフィスアワー	メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。アドレス：Haruko-s@seirei.ac.jp

科目名	精神看護学特講演習
科目責任者	式守晴子
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	精神看護学領域の特講およびインタープロフェッショナル特講を踏まえて精神看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論、方法論、および技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
科目の到達目標	１．精神看護学における高度な専門性を探求する。 ２．研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回　授業の進め方：関心のある研究テーマの紹介とディスカッション 第 2 回　研究課題の明確化に向けた検討：精神看護研究の動向から 第 3 回　文献検討：研究対象に関わる検討 第 4 回　文献検討：主要概念に関わる検討① 第 5 回　文献検討：主要概念に関わる検討② 第 6 回　文献検討：看護介入に関わる検討① 第 7 回　文献検討：看護介入に関わる検討② 第 8 回　研究目的・具体的目標の設定 第 9 回　研究枠組みの構築① 第 10 回 研究枠組みの構築② 第 11 回　研究対象の絞り込み 第 12 回　研究方法の検討① 第 13 回　研究方法の検討② 第 14 回　研究計画書の作成① 第 15 回　研究計画書の作成②

学修方法	自身の研究テーマに沿ってプレゼンテーション、講義、セミナー形式で授業を進める。
評価方法	ディスカッションおよびプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	提出さプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。さらに提出されたレポートに対してコメントをつけてフィードバックする。
指定図書	学生の研究テーマの文献、図書を指定する。
参考書	学生の研究テーマに関連した文献、図書を紹介する。
事前・事後学修	必要に応じて授業前に関連資料を配布する。各自文献を入手し、該当箇所を読んで授業に参加する。
オフィスアワー	メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。アドレス：Haruko-s@seirei.ac.jp

<table>
<tr><td>科目名</td><td colspan="2">生活支援看護学特別研究</td></tr>
<tr><td>研究指導教員</td><td colspan="2">式守晴子、川村佐知子（研究指導教員は課題により決まる）</td></tr>
<tr><td>研究指導補助教員</td><td colspan="2">鈴木知代</td></tr>
<tr><td>単位数他</td><td colspan="2">6 単位（180 時間）　選択　通年</td></tr>
<tr><td>科目の
位置付</td><td colspan="2">(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。
(5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。</td></tr>
<tr><td>科目概要</td><td colspan="2">地域看護学領域、老年看護学領域および精神看護学領域の特講と特講演習、インタープロフェッショナルワーク特講等をふまえて、特定の研究テーマを設定し、データ収集・分析を行い、論文を作成する過程を通して高度専門職業人として自立し研究活動を行う能力を修得する</td></tr>
<tr><td>科目の到達目標</td><td colspan="2">学生ごとに研究課題を持って進める。
１．各学生が自身の研究課題の焦点を深め、研究計画を作成する。
２．研究計画に沿って、倫理的配慮について第３者評価を得て、データ収集を行う。
３．収集したデータを適切に分析し、論文を作成する。</td></tr>
<tr><td rowspan="6">授業計画</td><td>＜１年次春セメスター＞
保健科学研究方法特講義（質的研究法、量的研究法）、保健科学英語特講で学修した内容を用いて、文献検討や討論を行い、学生ごとの研究課題についての焦点を絞る。</td><td>＜評価方法＞
討論参加度（30%）および課題の焦点化達成度（70%）、</td></tr>
<tr><td>＜１年次秋セメスター＞
研究計画書の作成・発表・修正を行い、研究計画書を完成する。
研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。</td><td>発表態度（30%）発表内容および研究計画書の完成度（70%）</td></tr>
<tr><td>＜2 年次春セメスター＞
研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究調査実施上の倫理的配慮について、申請する。</td><td>研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）</td></tr>
<tr><td>＜2 年次秋セメスター＞
適宜指導を受けながら、データ収集を行う。</td><td>データ収集の適切性（100%）</td></tr>
<tr><td>＜３年次春セメスター＞
適宜指導を受けながらデータ収集の補足およびデータの分析を行い、論文を作成する。</td><td>データ分析の論理性・技法の適切性（100%）、</td></tr>
<tr><td>＜３年次秋セメスター＞
論文を書き上げ、第３者の助言指導を受け、必要な修正を行い、論文を完成させる。
＊長期履修コースの場合は別に提示する</td><td>論文の完成度（70%）、第３者の評価による修正（30%）</td></tr>
</table>

学修方法	プレゼンテーションに関してスーパービジョンを行う形式で授業を進める。
評価方法	上記評価方法で総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	提出されたプレゼンテーションに対してディスカッションし、学生、教員とで共に学び、理解する。
指定図書	研究テーマに沿って、それに関する文献、図書を指定する。
参考書	研究テーマに関連する文献、図書を紹介する。
事前・事後学修	必要に応じて授業前に関連資料を配布する。また、研究のプロセスに応じてプレゼンテーションの資料を作成する。
オフィスアワー	メールにてご希望の日時をご連絡ください。調整します。 アドレス：Haruko-s@seirei.ac.jp

科目名	慢性看護学特講
科目責任者	木下幸代
単位数他	2 単位（30 時間）　春セメスター
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	慢性疾患とともに生活する人々とその家族の抱える複雑な問題状況を多角的に探求するとともに、人々が自らのセルフケア能力を十分に発揮できるよう支援するための方法論を検討し、慢性疾患をもつ人々へのケアモデルの開発にかかわる概念・理論の体系化を目指す。さらに、慢性疾患を抱えて生活する人々の在宅療養を支える保健・医療・福祉の専門職との連携・協働のあり方について探求する。
到達目標	１．病気や障害とともに生活する人々の抱える多様な問題・課題について多角的に探求する。 ２．慢性疾患を抱えて生活する人々の在宅療養を支える各種専門職の連携・協働の検討を通して、取り組むべき課題および対応策について探求する。 ３・文献検討を通して、慢性疾患を抱えて生活する人々のより質の高い療養生活の向けてのケアモデルの開発にかかわる概念・理論について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：慢性看護学の定義および取り組むべき課題　木下 幸代 第 2 回：超高齢社会と慢性疾患に関わる最近の動向　木下 幸代 第 3 回：病床機能分化と地域包括ケアシステム　木下 幸代 第 4 回：病気や障害とともに生活することに伴う多様な問題の検討　木下 幸代 第 5 回：慢性的な病気や障害をもつ人々を支える医療・福祉の課題　木下 幸代 第 6 回：慢性看護学にかかわる主要概念の検討（1）　木下 幸代 Cronicity の概念　／　病みの軌跡理論 第 7 回：慢性看護学にかかわる主要概念の検討（2）　木下 幸代 Self-care 概念および関連する諸概念 第 8 回：慢性看護学にかかわる主要概念の検討（3）　木下 幸代 Powerlessness　と　Empowerment　／　Uncertainty 第 9 回：慢性看護学にかかわる主要概念の検討（4）　木下 幸代 ストレスーコーピング理論　／　SOC（Sense of coherence） 第 10 回：慢性看護学にかかわる主要概念の検討（5）　豊島由樹子 ICF モデル　／　症状マネジメントモデル 第 11 回：慢性病者を支える多職種連携・協働（病院・施設内）　豊島由樹子 第 12 回：地域に暮らす慢性病者を支える多職種連携・協働　豊島由樹子 第 13 回：より質の高い療養生活に向けての在宅療養移行支援の検討　豊島由樹子 第 14 回：在宅療養における生活と治療を統合する支援の検討　豊島由樹子 第 15 回：慢性看護にかかわる倫理的課題　木下 幸代

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進めます。 授業計画の詳細については、開始時に相談して決定します。
評価方法	プレゼンテーション（50%）、課題レポート（50%）
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	１．Lubkin & Larson, 黒江ゆり子監訳(2007). クロニックイルネス. 医学書院. ２．日本慢性看護学会誌 特別号 10 周年記念誌－慢性看護の知の体系化. 2016 年 7 月. ３．野川道子編(2016). 看護実践に活かす中範囲理論, 第 2 版. メヂカルフレンド社. ４．東めぐみ編(2010). 進化する慢性病看護. 看護の科学社. （他の文献は、授業のなかで適宜紹介します。）
事前・事後学修	最初に、この授業の目標および授業計画を提示するので、担当するいくつかの課題を決め、事前学習を行い、プレゼンテーションの準備をしてください（各回 180 分程度）。 課題レポート１：取り上げた概念の一つから選択したテーマ 課題レポート２：関心領域に関する文献検討、概念分析、等
オフィスアワー	木下：5705 研究室　E-mail: sachiyo-k@seirei.ac.jp 豊島：1209 研究室　E-mail: yukiko-t@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	慢性看護学特講演習
科目責任者	木下幸代
単位数他	1 単位（30 時間）　秋セメスター
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	慢性看護学特講およびインタープロフェッショナルワーク特論等をふまえて、慢性看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	１．慢性看護学における高度な専門性を探求する。 ２．研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	担当教員：木下 幸代、豊島由樹子 ＜授業内容・テーマ等＞ 第 1～4 回：慢性看護学研究の動向と課題：研究課題の明確化に向けて 第 5～6 回：文献検討：研究対象に関わる検討 第 7～10 回：文献検討：主要概念に関わる検討 第 11～12 回：研究目的・具体的目標の設定（仮説を含む） 第 13～15 回：研究の枠組みについての検討

学修方法	講義およびセミナー形式で授業を進めます。 授業計画の詳細については、開始時に相談して決定します。
評価方法	課題レポート１・２（70%）、演習への参加度（30%）
課題に対するフィードバック	課題や事前学修の内容については、授業のなかでの討議を通して、随時フィードバックします。また、提出された課題については振り返りの機会を設けます。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	授業のなかで適宜紹介する。
事前・事後学修	今までの学修成果を統合して、研究計画の作成に向け準備してください。 課題レポート１：文献検討 課題レポート２：自由テーマ（予備研究等）
オフィスアワー	木下：5705 研究室　E-mail: sachiyo-k@seirei.ac.jp 豊島：1209 研究室　E-mail: yukiko-t@seirei.ac.jp 時間・連絡方法等については初回授業時に提示します。

科目名	急性看護学特講
科目責任者	森　一恵
単位数他	２単位（30 時間）春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	疾病、外傷、手術、侵襲的治療等によって生命危機状態に直面する患者とその家族の体験を明らかにするとともに、尊厳の尊重、心身の苦痛の緩和、救命救急、集中治療および回復リハビリテーション期に必要とされる支援のあり方を検討し、急性期にある患者と家族を支援するケアモデルの開発にかかわる概念・理論の体系化を目指す。また、急性期看護が提供される場の物理的、人的環境に目を向け、多職種の連携・協働のあり方について探求する。
到達目標	1. 生命危機状態にある患者・家族が直面する身体・心理・社会的課題について多角的に探求する。 2. 急性期患者・家族の尊厳と意思決定の尊重について探求する。 3. 急性期患者の苦痛と苦痛緩和の方法について探求する。 4. 急性期看護が提供される場の環境と多職種連携、リーダーシップのあり方とケア提供者の健康について探求する。
授業計画	＜担当教員名＞　森一恵、荒川靖子　　＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回：急性期看護を要する患者・家族の動向　森　一恵 第 2 回：急性期患者の身体的苦痛と苦痛緩和　荒川　靖子 第 4 回：急性期患者の家族の体験と支援　荒川　靖子 第 5 回：急性期患者・家族の権利擁護と意思決定支援　森　一恵 第 6 回：急性期看護の主要概念（1）ストレスと危機　荒川　靖子 第 7 回：急性期看護の主要概念（2）コントロールとパワー　荒川　靖子 第 8 回：急性期看護の主要概念（3）悲嘆とトラウマ　森　一恵 第 9 回：急性期看護の主要概念（4）急性期看護の卓越性　森　一恵 第 10 回：急性期看護の物理的環境と安全管理　荒川　靖子 第 11 回：急性期看護の人的環境と多職種連携　荒川　靖子 第 12 回：急性期看護におけるケア提供者へのケア　森　一恵 第 13 回：急性期看護における Synergy　Model　森　一恵 第 14 回：急性期看護学研究の動向と課題（1）文献講読　荒川　靖子 第 15 回：急性期看護学研究の動向と課題（2）文献講読　森　一恵

学修方法	講義および学生のプレゼンテーションをもとにしたセミナー形式で進めます。
評価方法	授業資料の準備とプレゼンテーション（60%）、課題レポート（40%）
課題に対するフィードバック	クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深める。
指定図書	とくに指定しない。
参考書	１．Benner P.他(1989) The Primacy of Caring. Addison-Wesley Publishing. ２．Benner P.他(1996) Expertise in Nursing Practice. Springer Publishing. ３．Hardin S.R.他(2005) Synergy for Clinical Excellence. American Association of Critical-Care Nurses その他、講義の中で適宜紹介します。
事前・事後学修	事前の話し合いで毎時間の目標を設定します。目標に従って文献検討、経験事例を整理してプレゼンテーション資料を作成してください。いつような学修時間は、指導教員と相談するが、面談の間隔によって異なる。
オフィス・アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 森一恵(1217 研究室:kazue-m@seirei.ac.jp)水曜日 12:00～13:00 荒川靖子（1211 研究室：yasuko-a@seirei.ac.jp）月曜日 13:25～14:45

科目名	急性看護学特講演習
科目責任者	森　一恵
単位数他	1 単位（30 時間）秋
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	急性期看護学特論およびインタープロフェッショナルワーク特論等をふまえて、慢性・急性期看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. 急性期看護学における高度な専門性を探究する。 2. 研究課題に解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回：研究課題の設定に向けた検討：急性期看護の動向から　荒川　靖子 第 2 回：研究課題の設定に向けた検討：急性期看護学研究の動向から　森　一恵 第 3 回：文献検討：研究対象の選定についての検討　森　一恵 第 4 回：文献検討：使用する概念についての検討（1）概念の抽出　森　一恵 第 5 回：文献検討：使用する概念についての検討（2）概念の統合　森　一恵 第 6 回：文献検討：看護介入方法についての検討（1）行動変容モデル　森　一恵 第 7 回：文献検討：看護介入方法についての検討（2）ストレスコーピングモデル　荒川　靖子 第 8 回：自己の研究課題、研究目標の設定　森　一恵 第 9 回：研究枠組みの構築（1）研究枠組みについて　森　一恵 第 10 回：研究枠組みの構築（2）研究の妥当性の検証　森　一恵 第 11 回：研究方法の検討：データ収集方法　荒川　靖子 第 12 回：研究方法の検討：分析方法　荒川　靖子 第 13 回：研究に必要とされる倫理的配慮　森　一恵 第 14 回：研究計画案の検討（1）対象の選定　森　一恵 第 15 回：研究計画案の検討（2）分析方法等の検討　森　一恵

学修方法	講義および学生のプレゼンテーションをもとにしたセミナー形式で進めます。これまでの学修成果を統合して、研究計画書の作成に向けて準備します。
評価方法	資料の準備とプレゼンテーション（40%）、課題レポート（60%）
課題に対するフィードバック	クラスの前までにプレゼンテーションの準備を行い、教員より課題に対する指導を受けてからクラスに臨む。クラスでのディスカッションにおいて課題をより深める。
指定図書	L.O.Walker, & K.C.Avant 著、中木高夫他訳:看護における理論構築の方法、医学書院
参考書	J.Fawsett 著：フォーセット看護理論の分析と評価、医学書院 その他、講義の中で適宜紹介します。
事前・事後学修	研究課題に関係するデータ収集方法、対象の選定など研究法の復習をしておいてください。必要な学修時間は、指導教員との面談の間隔によって異なる。
オフィス・アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 森一恵(1217 研究室:kazue-m@seirei.ac.jp)水曜日 12:00～13:00 荒川靖子（1211 研究室：yasuko-a@seirei.ac.jp）月曜日 13:25～14:45

科目名	がん看護学特講
科目責任者	大石ふみ子
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の 位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	がん患者・家族のもつ複雑な問題を多角的に探求し、ＱＯＬの向上にむけた問題解決のための理論・方法論、及び多職種による連携・協働について探求する。
到達目標	1. がん患者・家族のもつ複雑な問題を多角的に探求する。 2. がん患者・家族のもつ様々な問題を解決し、ＱＯＬを向上させるための理論や方法論・技法について、広範な学問分野・文献から、また国際的視点に立って検討する。 3. がん患者・家族を中心とした多職種による連携・協働のあり方を探求する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ ［がん患者・家族の問題の多角的探求　］ 第 1 回：がん患者のトータルペイン　大石ふみ子 第 2 回：身体・心理・社会・霊的・倫理的問題の分析－(1)　大石ふみ子 小島　操子 第 3 回：身体・心理・社会・霊的・倫理的問題の分析－(2)　大石ふみ子 小島　操子 第 4 回：倫理的問題の総合的検討　大石ふみ子 小島　操子 第 5 回：家族の問題の検討　大石ふみ子 ［がん患者・家族の看護介入方法の体系化の探求］ 第 6 回：臨床判断のプロセス　大石ふみ子 小島　操子 第 7 回：生理学的アプローチ　大石ふみ子 小島　操子 第 8 回：心理・教育学的アプローチ　大石ふみ子 小島　操子 第 9 回：認知・行動学的アプローチ　大石ふみ子 小島　操子 第 10 回：個別アプローチとグループアプローチ　大石ふみ子 小島　操子 ［がん患者・家族を中心とした多職種連携・協働の探求］ 第 11 回：がん医療におけるチームアプローチ　大石ふみ子 第 12 回：がん医療チームにおける多職種の役割・機能　大石ふみ子 第 13 回：がん患者のトータルペインと多職種連携・協働の実践と評価－(1)　森田　達也 第 14 回：がん患者のトータルペインと多職種連携・協働の実践と評価－(2)　森田　達也 第 15 回：がん医療における多職種連携・協働のまとめ　大石ふみ子 ※日程は相談のうえ、決定する。

学修方法	講義、プレゼンテーション、討議により授業を進める。
評価方法	・各自の課題達成状況（60%） ・複雑な問題をもつがん患者・家族の事例分析とアプローチについてのレポート（40%）
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。
指定図書	『OPTIM Report 2011　緩和ケア普及のための地域プロジェクト報告書』厚生労働科学研究補助金　第３次対がん総合戦略研究事業「緩和ケアプログラムによる地域介入研究」班（2013）．　http://gankanwa.umin.jp/report.html（森田講師による授業用資料）
参考図書	『ソーシャルキャピタル入門』稲葉陽二（2011），中公新書 その他、授業中に随時提示する。
事前・事後学修	授業前に授業計画に示した各回の内容について自己学修し、プレゼンテーション・討議用の資料を作成する。 授業後に討議をふまえて授業内容について復習する。
オフィスアワー	科目責任者：大石ふみ子（看護学研究科） 研究室：1219　メールアドレス： fumiko-o@seirei.ac.jp 時間については初回授業時に提示します。

科目名	がん看護学特講演習
科目責任者	大石ふみ子
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	がん看護学特講をふまえて、がん看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. がん看護学における高度な専門性を探究する。 2. がん患者、家族のＱＯＬを向上させるための斬新な研究課題を明確化する。 3. 研究課題解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法を検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員＞ 第 1-2 回：がん看護学特講で深めた学修内容及び自己の経験から課題を見出し、文献検討を行い、検討・討議する。　大石ふみ子　小島　操子 第 3 - 6 回：課題に関して、実践の場（外来または病棟等）の実状を見聞し、理論との融合について検討・討議する。　大石ふみ子 第 7－10 回：課題に関して、多職種との連携と協働の実状を見聞し、課題解決のための連携協働のあり方について検討・討議する。　大石ふみ子 第 11－13 回：広くフィールドで収集した資料やデータに基づいて、課題解決のための方法や実践に応用する方法について検討・討議する。　大石ふみ子 第 14－15 回：課題解決のための方法や実践に応用する方法について明らかにする。　大石ふみ子　小島　操子 ※日程は相談のうえ、決定する。

学修方法	プレゼンテーション、討議、個別指導により授業を行う。
評価方法	・がん看護領域における専門性についてのレポート（40%） ・がん患者・家族のＱＯＬを向上させるための課題の解決に向けた方法及び実践に応用する方法についてのレポート（60%）
課題に対するフィードバック	個人または履修者全体に対し、次回授業での意見・助言や、課題・提出物へのコメントの記載により、課題とその成果に対するフィードバックを行う。
指定図書	特に指定しない。
参考図書	『ソーシャルキャピタル入門』稲葉陽二（2011），中公新書 その他、授業中に随時提示する。
事前・事後学修	授業前に、がん看護学特講及び保健科学研究方法特講等の学修内容をふまえてプレゼンテーション・討議用の資料を作成する。 授業後に討議内容をふまえて復習する。
オフィスアワー	科目責任者：大石ふみ子（看護学研究科） 研究室：1219　メールアドレス： fumiko-o@seirei.ac.jp 時間については初回授業時に提示します。

科目名	療養支援看護学特別研究	
研究指導教員	木下幸代　森一恵、大石ふみ子（研究指導教員は課題により決まる）	
研究指導補助教員	荒川靖子　豊島由樹子　樺澤三奈子	
単位数他	6 単位（180 時間）　選択　通年	
科目の 位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	これまでの学修をふまえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。 研究指導は、研究指導教員を中心に、療養支援看護学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第３者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。	
授業計画 および 評価方法	＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春セメスター：これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	＜評価方法＞ 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋セメスター： 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	２年次春セメスター：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40%）研究計画書の完成度（60%）
	２年次秋セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集及び副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	３年次春セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の論理性・技法の適切性（100%）
	３年次秋セメスター：第３者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度(70%) 第３者の評価による修正の適切性(30%)

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	授業のなかでの discussion、検討会等、様々な機会を通して随時フィードバックします。
指定図書	なし
参考書	授業時に随時連絡
事前学習・課題等	随時指定
オフィスアワー	初回授業時に提示します。

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講
科目責任者	藤本　栄子、久保田　君枝
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の位置付	(2) 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	妊娠・分娩・育児期の女性および胎児・新生児とその家族の健康課題、ならびに早産児等の NICU 入院児と家族のもつ健康問題を身体・心理・社会ならびに文化的に捉え多角的に探求し、女性や子ども、家族が自らの力を最大限に発揮して適応できるよう支援するための諸理論や方法論、技法について学修する。さらに、女性や子ども、家族のニーズを解決するために、医療者間および関係諸期間の連携・協働をふまえた看護専門職の役割論を追究する。
到達目標	1. 周産期を中心とした女性と新生児、ならびに早産児等の NICU 入院児と家族の健康問題を多角的に探究し把握できる。 2. 関心のあるテーマに関する研究の動向を把握し、健康問題の特定ならびに看護援助の方法を探究する。 3. 医療者間および関係諸機関のパートナーシップを基盤とした連携・協働、ならびに看護専門職（助産師）の役割を理解する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞　＜担当教員名＞ 第 1 回 : オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議　久保田君枝・藤本栄子 第 2 回 : リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念　（親子関係論・愛着理論）　藤本栄子 第 3 回 : リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念　（ 移行概念）　藤本栄子 第 4 回 : リプロダクティブヘルスに関わる理論と概念　（リプロダクティブヘルス・ライツ）　久保田君枝 第 5 回 : リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス（養育困難）　久保田君枝 第 6 回 : リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス（家族エンパワーメント）　藤本栄子 第 7 回 : リプロダクティブヘルスおよびウィメンズヘルスに関するトピックス（人工妊娠中絶と女性の健康）　久保田君枝 第 8 回 : 関心のあるテーマに関する研究の動向　久保田君枝・藤本栄子 第 9 回 : 関心のあるテーマに関する研究の動向　久保田君枝・藤本栄子 第 10 回 : セルフケア理論と看護援助　久保田君枝・藤本栄子 第 11 回 : 医療者間および関係諸機関のパートナーシップを基盤とした連携・協働　久保田君枝・藤本栄子 第 12 回 : セルフケア理論と看護援助　久保田君枝・藤本栄子 第 13 回 : 関心のあるテーマに関する研究の動向　久保田君枝・藤本栄子 第 14 回 : 課題の発表　久保田君枝・藤本栄子 第 15 回 : まとめ　久保田君枝・藤本栄子

学修方法	「講義」「グループワーク」「討論」「発表」
評価方法	プレゼンテーション　50%、最終レポート　50%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	特に指定しない。
参考書	講義中に紹介
事前・事後学修	テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。 第１回のオリエンテーション時に説明をする予定です。
オフィスアワー	藤　本：土曜日の午後　メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp 久保田：土曜日の午後　メールアドレス kimie-k@seirei.ac.jp

科目名	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講演習
科目責任者	藤本　栄子、久保田　君枝
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	リプロダクティブ・ヘルス看護学特講およびインタープロフェッショナルワーク特講をふまえて、本領域の高度な専門性を深めるとともに、研究課題を明確化し、課題解決のための理論や方法論、技法について、実証的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	1. 関心のあるテーマに関する概念枠組みや研究方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議　久保田君枝・藤本栄子 第 2 回 : 関心のあるテーマに関する文献の統合　久保田君枝・藤本栄子 第 3 回 : 関心のあるテーマに関する目的の明確化　久保田君枝・藤本栄子 第 4 回 : 関心のあるテーマに関する目的の明確化　久保田君枝・藤本栄子 第 5 回 : 関心のあるテーマに関する主要概念の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 6 回 : 関心のあるテーマに関する主要概念の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 7 回 : 関心のあるテーマに関する主要概念の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 8 回 : 関心のあるテーマに関する主要概念の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 9 回 : 関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討　久保田君枝・藤本栄子 第 10 回 : 関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討　久保田君枝・藤本栄子 第 11 回 : 関心のあるテーマに関する概念枠組みの検討　久保田君枝・藤本栄子 第 12 回 : 関心のあるテーマに関する研究方法の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 13 回 : 関心のあるテーマに関する研究方法の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 14 回 : 関心のあるテーマに関する研究方法の検討　久保田君枝・藤本栄子 第 15 回 : 研究計画書の作成　久保田君枝・藤本栄子

学修方法	「講義」「グループワーク」「討論」「発表」
評価方法	プレゼンテーション　50%、最終レポート　50%
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	特に指定しない。
参考書	講義中に紹介
事前学習・課題等	テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。
オフィスアワー	藤本　栄子：土曜日の午後　メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp 久保田君枝：土曜日の午後　メールアドレス kimie-k@seirei.ac.jp

科目名	小児看護学特講
科目責任者	市江　和子
単位数他	2 単位（30 時間）　春
科目の 位置付	⑵ 高度な専門知識・能力を習得し、探求心と論理的思考力を身に付け、問題解決を図ることができる。
科目概要	子どもと親・家族を対象として、ライフステージにおける健康問題や倫理的問題とともに、子どもを取り巻く環境に関して理解を深める。さらに、小児看護学の理論的背景を究明し、小児と家族に対する看護の主要な問題と研究方法について探求する。
到達目標	１．小児看護学の主要な理論および概念について理解し、研究への適用を考察する。 ２．主要な研究デザインと研究手法について理解し、小児看護学研究への適用を考察できる ３．子どもと親・家族のもつ問題を多角的に探究する。 ４．子どもと親・家族を支える各専門職の連携・協働を検討し、課題および対応策を探求する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 第 1 回 : オリエンテーション、関心をもつ研究テーマの紹介と討議 第 2 回 : 小児看護学にかかわる主要概念の検討（1）セルフケア概念 第 3 回 : 小児看護学にかかわる主要概念の検討（2）ストレスコーピング理論 第 4 回 : 小児看護学にかかわる主要概念の検討（3）ソーシャルサポート 第 5 回 : 健康問題をもつ子どもと親・家族の支援方法に関する研究の動向 第 6 回 : 障がいをもつ子どもと親・家族の支援方法に関する研究の動向 第 7 回 : 量的研究方法を用いた博士論文の講読と理論的枠組み 第 8 回 : 質的研究方法を用いた博士論文の講読と理論的枠組み 第 9 回 : 現代におけるこどもと家族を取り巻く問題 第 10 回 : 子どもと親・家族の抱える問題の検討（1）健康障害児と親・家族の問題 第 11 回 : 子どもと親・家族の抱える問題の検討（2）障がいをもつ児と親・家族の問題 第 12 回 : 子育て支援のあり方 第 13 回 :　子どもの病気と家族支援 第 14 回 : 研究テーマに関する文献レビュー 第 15 回 :　まとめ

学修方法	講義、討論、発表
評価方法	課題レポート 50%、授業に対する取り組みの姿勢 50%を総合的に判断する。
課題に対するフィードバック	授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。
指定図書	特に指定しない。必要な資料は配布する。
参考書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	関心あるテーマについて事前学修のレポートを作成する。
オフィスアワー	金曜日午前（1712 研究室）e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp

科目名	小児看護学特講演習
科目責任者	市江　和子
単位数他	1 単位（30 時間）　秋
科目の 位置付	(3) 自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	子どもと親・家族の健康をめぐる研究課題を明らかにし、成長・発達段階に基づく理論と既存の研究知見をふまえた上で、子どもと親・家族に内在する力を引き出す看護に関する研究方法を明確にする。小児看護学領域の高度な専門性を深めるとともに、課題解決のための理論や方法論、技法について、実践的に研究する方法ならびに実践に応用する方法を修得する。
到達目標	１．小児看護学領域における高度な専門性を探求する。 ２．特講で選択したそれぞれのテーマと、その中で明らかにしたい内容にもっとも適する研究方法論を選択するための知識と方法を身につける。 ３．研究課題の解決に向けた研究方法ならびに実践に応用する方法について検討する。
授業計画	＜授業内容・テーマ等＞ 各自のテーマに沿って、論文抄読を行い、研究計画を作成して研究を行う。 第 1-2 回：　文献検討 第 3-４回：　研究テーマに応じた文献検討 第 5-6 回：　研究デザイン、研究フィールド、研究対象の検討 第 7-10 回：　予備研究の実施：調査、データ収集・分析 第 11-12 回：　データ収集・分析 第 13-14 回：　研究のまとめ 第 15 回：レポート作成

学修方法	講義、演習、討論、発表
評価方法	小児看護学領域における専門性についてのレポート（50%）、参加度とプレゼンテーション（50%）を含め、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	授業の中で課題を明らかにした上で、次回以降に疑問点や調べた内容についてフィードバックを受ける。
指定図書	特に指定しない。必要な資料は配布する。 授業中に随時紹介する。
参考書	授業中に随時紹介する。
事前・事後学修	関心あるテーマについての事前学修のレポートを作成する。
オフィスアワー	金曜日午前（1712 研究室）e-mail:kazuko-i@seirie.ac.jp

科目名	家族支援看護学特別研究	
研究指導教員	市江和子　藤本栄子　久保田君枝（研究指導教員は課題により決まる）	
研究指導補助教員		
単位数他	6 単位（180 時間）　選択　通年	
科目の 位置付	(4) 研究課題を自ら発見し、先行研究のレビューを行い、独創的な研究テーマを設定して、研究計画を立案することができる。 (5) 研究計画に沿ってデータ収集を行い、結果のまとめ・データ分析・考察を適切に行い、論文としてまとめ発表することができる。	
科目概要	これまでの学習を踏まえて、各学生は特定の研究課題を選択し、研究計画書を作成し、データ収集・分析を行い、博士論文を作成する過程を通して、研究活動が行える能力を修得する。 研究指導は、研究指導教員を中心に、家族支援看護学分野の複数教員が協力しながら行う。	
到達目標	1. 各学生が自身の研究課題の焦点化を深め、研究計画を作成する。 2. 研究計画に沿って、倫理的配慮について第 3 者評価を得て、資料収集を行う。 3. 得られた資料を適切に分析し、論文としてまとめる。	
授業計画 および 評価方法	＜授業内容・テーマ等＞ 1 年次春セメスター：これまでに学修した内容を用いて、先行研究論文の吟味や討論を行い、研究課題について焦点を絞る。	＜評価方法＞ 討論参加度（30%）及び課題の焦点化達成度（70%）
	1 年次秋セメスター： 研究計画を検討会で発表し、研究科委員会構成メンバーから指導を受け、研究計画書を推敲する。	発表態度（30%）発表内容及び研究計画の完成度（70%）
	２年次春セメスター：研究計画書に従って、研究倫理委員会に研究計画の倫理的配慮について申請し、承認を受けた後、調査を実施し、資料を収集する。	研究計画の倫理的配慮の精度（40％）研究計画書の完成度（60%）
	２年次秋セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集及び副論文の作成、学会発表を行う。	データ収集の適切性（70%）副論文の作成、学会発表の達成度（30%）
	３年次春セメスター：適宜、指導を受けながら、データ収集の補足及びデータの分析を行い、論文を作成する	データ分析の論理性・技法の適切性（100%）
	３年次秋セメスター：第 3 者の助言、指導を受けながら、論文を完成させる。	論文の完成度(70%)第 3 者の評価による修正の適切性(30%)

学修方法	発表、ディスカッション、個別指導、講義
評価方法	上記、評価方法を用いて、総合的に最終評価を行う。
課題に対するフィードバック	レポートへのコメント
指定図書	なし
参考書	授業時に随時連絡
事前学習・課題等	テーマに基づき、各自プレゼンテーションの準備をしておいてください。
オフィスアワー	市江　和子：メールアドレス kazuko-i@seirei.ac.jp 藤本　栄子：土曜日の午後　メールアドレス eiko-f@seirei.ac.jp 久保田君枝：土曜日の午後　メールアドレス kimie-k@seirei.ac.jp